

科目名	助産論Ⅲ(周産期ケア演習) Midwifery Ⅲ		担当教員 (研究室番号)	岩田 朋美 (101) 大平 肇子 (104) 永見 桂子 (102) 杉山 泰子 (103) 市川 陽子 (105) (非常勤)	教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	4年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学	選択区分	自由	単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	科目等履修生	否
										オープンクラス	否
科目目的	周産期にある母子とその家族の健康を支援するため、助産過程の展開に必要な知識・診断技術および助産実践に必要な基本的技術を修得する。										
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)									
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期の助産過程を展開することができる。 2. 妊娠期にある女性の健康診査・保健指導を実践することができる。 3. 分娩期の対象の身体的、心理社会的変化と適応状態を診断し、正常経過を促すケアを立案することができる。 4. 分娩介助の意義、原理および手順を述べることができる。 5. 分娩介助の基本的な技術を理解し、実践することができる。 6. 産褥期にある女性の健康診査・保健指導・ケアを実践することができる。 7. 新生児期にある対象の健康診査・ケアを実践することができる。 8. 乳児期の健康診査および母親への保健指導を説明することができる。 										
成績評価方法(基準)	筆記試験(40%)、分娩介助の技術試験(20%)、レポート課題(30%)、演習への取り組み(10%) ※筆記試験および分娩介助の技術試験については、各試験の60%以上の得点を合格とする。										
再試験の有無と基準等	無：筆記試験、ならびに複数回の技術試験、演習課題および演習への取り組みにより評価するため、科目の可否結果で不合格となった場合、再試験は実施しない。										
教科書	助産論Ⅱで指定した教科書、助産学講座5・10(医学書院)、助産業務ガイドライン2019(日本助産師会出版) 新版 助産師業務要覧 第3版 I 基礎編・II 実践編(日本看護協会出版会) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版(医学書院) 日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版(メジカルビュー社)										
参考書等	助産学講座2～4・9、助産師基礎教育テキスト第1巻～第7巻(日本看護協会出版会) 新版 助産師業務要覧 第3版 III アドバンス編(日本看護協会出版会)										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	助産師として必要な診断技術や分娩介助技術、保健指導の演習が中心です。特に分娩介助技術は母児の健康や出産体験に直接影響をおよぼす技術です。母児の安全を最優先に考え、産婦とその家族がよりよい出産体験ができるよう、技術の習熟度を高めることが必須です。自主的・積極的な学習を期待します。										
備考	助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることが履修の前提となります。3年次の終了時までには修得すべき授業科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。										
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	助産実践における相談・教育活動の技術			助産活動を支える理論・技術の基本について理解し、さまざまな相談・教育活動の技術の特徴と手法について学ぶ。				岩田	講義		
2回	妊娠期のフィジカルイグザミネーション①			フィジカルイグザミネーションにおける助産師の基本的姿勢の理解のもとに、妊婦のフィジカルイグザミネーションの基本的技術について学ぶ。				岩田 他	演習		
3回	妊娠期のフィジカルイグザミネーション②			妊婦健康診査の場面を想定し、妊娠期のフィジカルイグザミネーションの一連の過程に沿って、妊婦診察の実際を学ぶ。				岩田 他	演習		
4回	妊娠初期の妊娠経過の診断(アセスメント)			妊娠初期の初回面談時の問診とアセスメントを行う。				岩田 他	演習		
5回	妊娠中期の健康診査と保健指導①			妊娠中期の妊婦健康診査を行い、その結果をふまえて保健指導を実践する。				岩田 他	演習		
6回	妊娠中期の健康診査と保健指導②			妊娠中期の妊婦健康診査を行い、その結果をふまえて保健指導を実践する。				岩田 他	演習		
7回	妊娠末期の健康診査と保健指導①			妊娠末期の妊婦健康診査を行い、その結果をふまえて保健指導を実践する。				岩田 他	演習		
8回	妊娠末期の健康診査と保健指導②			妊娠末期の妊婦健康診査を行い、その結果をふまえて保健指導を実践する。				岩田 他	演習		
9回	分娩介助の原理			分娩介助の原理を学ぶ。				岩田	講義		
10回	分娩期の助産診断と助産過程①			助産診断の理論をふまえ、妊娠産褥および胎児・新生児とその家族に対する助産過程の展開(助産計画立案・実施・評価のプロセス)について理解する。				岩田	講義		
11回	分娩期の助産診断と助産過程②			分娩期(入院時)の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 ・助産計画の立案				岩田 他	演習		
12回	分娩期の助産診断と助産過程③			分娩期(入院時)の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 ・助産計画のグループ発表				岩田 他	演習		
13回	分娩期のフィジカルイグザミネーション			産婦の健康診査の場面を想定し、分娩期のフィジカルイグザミネーションの一連の過程に沿って、産婦診察の実際を学ぶ。				岩田 他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
14回	分娩期の助産診断とケア①	分娩期（入院時）の観察、診察およびケアを実践する。	岩田 他	演習
15回	分娩期の助産診断とケア②	分娩期（入院時）の観察、診察およびケアを実践する。	岩田 他	演習
16回	分娩期の助産診断と助産過程④	分娩第1期（活動期）の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 ・助産計画の立案、グループ発表	岩田 他	演習
17回	分娩期の助産診断とケア③	分娩第1期（活動期）の観察、診察およびケアを実践する。	岩田 他	演習
18回	分娩期の助産診断とケア④	分娩第1期（活動期）の観察、診察およびケアを実践する。	岩田 他	演習
19回	分娩期の助産診断と助産過程⑤	分娩第2期～第4期の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 ・助産計画の立案、グループ発表	岩田 他	演習
20回	分娩介助技術①	分娩介助の準備から分娩第3期に至るまで、正常分娩介助の一連の流れに沿った実技をとおして実際を学ぶ。	岩田 他	演習
21回	分娩介助技術②	分娩介助の準備から分娩第3期に至るまで、正常分娩介助の一連の流れに沿った実技をとおして実際を学ぶ。	岩田 他	演習
22回	分娩介助技術③	分娩介助の準備から分娩第3期に至るまで、正常分娩介助の一連の流れに沿った実技をとおして実際を学ぶ。	岩田 他	演習
23回	分娩介助技術④	分娩介助の準備から分娩第3期に至るまで、正常分娩介助の一連の流れに沿った実技をとおして実際を学ぶ。	岩田 他	演習
24回	分娩期の助産診断とケア⑤	分娩第4期の観察、診察およびケアを実践する。	岩田 他	演習
25回	産褥期と新生児期の助産診断と助産過程	産褥期と新生児期の助産診断と助産過程の実際を学ぶ。 ・助産計画の立案、グループ発表	岩田 他	演習
26回	新生児期の助産診断・技術とケア①	新生児のフィジカルイグザミネーションの実際と新生児蘇生法を学ぶ。	学外講師 岩田 他	演習
27回	新生児期の助産診断・技術とケア②	ハイリスク状態にある新生児のアセスメントと援助に必要な知識・技術について理解する。	学外講師 岩田 他	演習
28回	産褥期の保健指導①	保健指導案にもとづき保健指導を実践する。	岩田 他	演習
29回	産褥期の保健指導②	保健指導案にもとづき保健指導を実践する。	岩田 他	演習
30回	乳児期の母子の助産診断とケア	2週間および1か月の母子のアセスメントを行い、必要な支援を考える。	岩田 他	演習

学 習 課 題

<p>本授業では、模擬事例をもちいて妊娠期から産褥期・新生児期までの助産過程を展開するとともに、それにもとづく助産ケア、保健指導を実践する。</p> <p>2回目・3回目課題（事前）：妊婦健康診査の一連の流れと妊娠週数に応じた診察項目について整理する。</p> <p>4回目課題（事前）：事例の妊娠10～13週頃の初回面談を想定し、必要な問診項目について整理する。</p> <p>5回目・6回目課題（事前）：妊婦健康診査の一連の流れと妊娠週数に応じた診察項目について整理する。 所定の記録用紙をもちいて、事前に提示された情報をもとに保健指導案を作成する。</p> <p>5回目・6回目課題（事後）：保健指導の実施をもとに、保健指導案の修正と保健指導の評価を行い、指定の期日までに提出する。 〔配点5%〕</p> <p>7回目・8回目課題（事前）：妊婦健康診査の一連の流れと妊娠週数に応じた診察項目について整理する。 所定の記録用紙をもちいて、事前に提示された情報をもとに保健指導案を作成する。</p> <p>7回目・8回目課題（事後）：保健指導の実施をもとに、保健指導案の修正と保健指導の評価を行い、指定の期日までに提出する。 〔配点5%〕</p> <p>12回目課題（事前）：グループディスカッションに向け、所定の記録用紙をもちいて事例の助産計画を立案する。</p> <p>12回目課題（事後）：グループディスカッションをもとに、各自の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。〔配点5%〕</p> <p>13回目課題（事前）：産婦の健康診査の一連の流れと分娩経過に応じた診察項目について整理する。</p> <p>14回目・15回目課題（事前）：立案した助産計画をもとに診察・観察・助産ケアが実践できるよう事前学習を行う。</p> <p>16回目課題（事前）：グループディスカッションに向け、所定の記録用紙をもちいて事例の助産計画を立案する。</p> <p>16回目課題（事後）：グループディスカッションをもとに、各自の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。〔配点5%〕</p> <p>17回目・18回目課題（事前）：分娩経過に応じた診察項目について整理する。 立案した助産計画をもとに診察・観察・助産ケアが実践できるよう事前学習を行う。</p> <p>19回目課題（事前）：グループディスカッションに向け、所定の記録用紙をもちいて事例の助産計画を立案する。</p> <p>19回目課題（事後）：グループディスカッションをもとに、各自の助産計画を修正し、指定の期日までに提出する。〔配点5%〕</p> <p>20～23回目課題（事前）：分娩介助の準備、正常分娩介助法について学習し、分娩介助の準備から胎盤娩出直後の観察まで一連の流れを実践できるよう整理する。 立案した助産計画をもとに診察・観察・助産ケアが実践できるよう事前学習を行う。</p> <p>24回目課題（事前）：分娩第4期の診察項目について整理する。 立案した助産計画をもとに診察・観察・助産ケアが実践できるよう事前学習を行う。</p> <p>25回目課題（事前）：グループディスカッションに向け、所定の記録用紙をもちいて事例の助産計画を立案する。</p> <p>26回目・27回目課題（事前）：『日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト』を熟読しておく。</p> <p>28回目・29回目課題（事前）：事例の褥婦に対する保健指導場面を想定し、所定の記録用紙をもちいて保健指導案を作成する。</p> <p>28回目・29回目課題（事後）：保健指導の実施をもとに、保健指導案の修正と保健指導の評価を行い、指定の期日までに提出する。 〔配点5%〕</p> <p>30回目課題（事前）：褥婦および新生児の2週間健診および1か月健診の一連の流れと観察・問診項目について整理する。</p>
--

実務経験を活かした教育の取組

<p>・専任教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践および教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。また、非常勤講師は、医師（新生児科医）として実務に携わっており、医学の実践及び教育・研究活動の経験を活かして本授業の演習を行う。</p>
